

国讃めと屍

沖つ波 来寄る荒磯を 敷栲の 枕とまきて 寝せる君かも

開催期間 二〇二一年九月十八日(土)～十二月十九日(日)
開場時間 九時～十七時(入館は十六時三十分まで)
休館日 月曜日(月曜日が休日の場合は、原則として翌火曜日)
会場 瀬戸内海歴史民俗資料館 瀬戸内ギャラリー
主催 瀬戸内海歴史民俗資料館(香川県立ミュージアム分館)
瀬戸内アートコレクティブ
助成 文化庁「ARTS for the future」補助対象事業
観覧無料

藏本秀彦・水谷一 美術展

※階段の多い施設です。車椅子による移動は職員が補助いたしますので、ご利用の際は事前にご相談下さい。
※新型コロナウイルスの感染状況等により会期、内容が変更になる場合もございます。事前に確認しご来場ください。
※感染症予防対策にご協力ください。

Seto Inland Sea Folk History Museum
瀬戸内海歴史民俗資料館
761-8001 香川県高松市亀水町 1412-2 (五色台山上) 087-881-4707



特設サイト

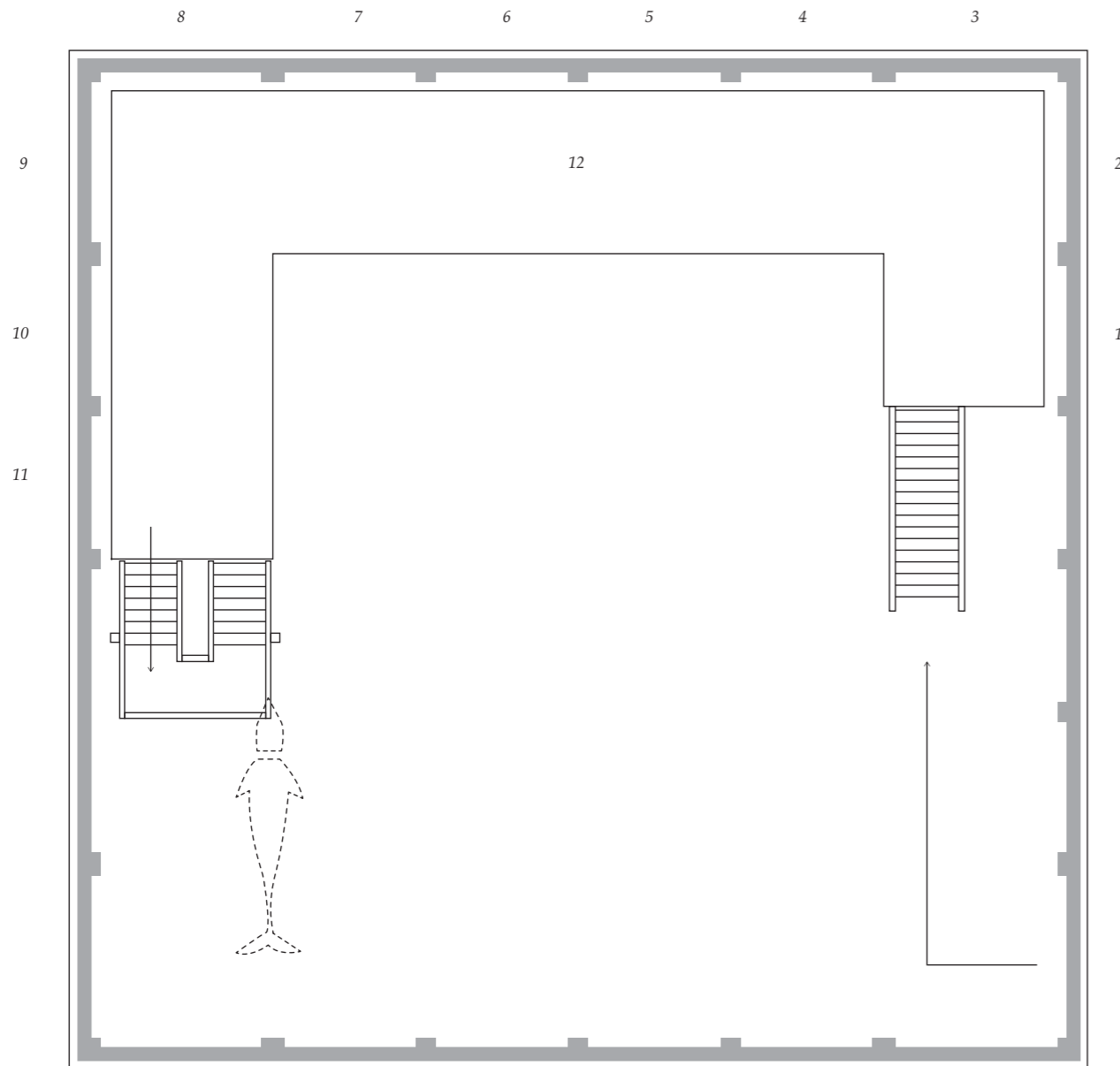
讃岐の狭岑(さみね)の島にして、石の中の死人を見て、柿本朝臣人麻呂の作る歌一首并せて短歌

玉藻よし 讃岐の国は 国からか 見れども飽かぬ 神からか ここだ貴き 天地 日月とともに足り行かむ
神の御面と 継ぎ来たる 那珂の港ゆ 船浮けて 我がこぎ来れば 時つ風 雲居に吹くに沖見れば
とみ波立ち 辺見れば 白波騒ぐ 鯨魚(いさな)取り 海を畏み 行く船の 梶引き折りをちこちの
島は多けど 名ぐはし 狭岑の島の 荒磯面に いほりて見れば 波の音の しげき浜辺を
敷栲(しきたへ)の 枕になして 荒床に 自臥(ころふ)す君が 家知らば行きても告げむ
妻知らば 来も問はましを 玉鉾の 道だに知らず おほほしく 待ちか恋ふらむ 愛しき妻らは

反歌二首

妻もあらば 摘みて食べまし 佐美の山 野の上のうはぎ 過ぎにけらずや

沖つ波 来寄る荒磯を 敷栲の 枕とまきて 寝せる君かも



1.
TRUST 11-13
1120×1455 (F80)
キャンバスに油彩
2011

2.
TRUST 11-11
1120×1455 (F80)
キャンバスに油彩
2011

3.
TRUST 11-10
1120×1455 (F80)
キャンバスに油彩
2011

4.
TRUST 12-03
1303×1940 (F120)
キャンバスに油彩
2012

5.
TRUST 12-04
1303×1940 (F120)
キャンバスに油彩
2012

6.
TRUST 12-02
1120×1620 (P100)
キャンバスに油彩
2012

7.
TRUST 12-01
1120×1620 (P100)
キャンバスに油彩
2012

8.
TRUST 11-14
1120×1455 (F80)
キャンバスに油彩
2011

9.
TRUST 12-06
970×1940 (M120)
キャンバスに油彩
2012

10.
TRUST 12-05
970×1940 (M120)
キャンバスに油彩
2012

11.
TRUST 12-09
1120×1620 (P100)
キャンバスに油彩
2012

12.
意味を与える自由
Freedom of Sensemaking
構成物：石膏による林檎の複製
2021

本作では石膏で出来た白い林檎が会場や会場以外に点在する。控え目にひっそりとそれらはたまたまそこにありここにある。全部でいくつあるかはわからない。もちろん石膏なのでナイフで剥く事も齧る事も出来ない。丁寧に見ればおそらくどれも同じ林檎から象られた複製物である事が分かるがさて、あなたはその元となった林檎が一体いつ頃、瑞々しい姿で樹に実り太陽を浴びていたか分かるだろうか。2ヶ月前か3年前か40年前か1世紀前かそれよりもっとずっとずっとずっと以前か。いずれにしてもこの林檎はもうこの世界に林檎として存在していない。ところで私たちは古今東西の数多の林檎を林檎と呼ぶが、色や形、身に受けた傷、その味わい、一つとして同一の存在は存在しない。10個の林檎は同じ樹に同時期に実った同種であっても10個の別の林檎であり、それぞれが唯一無二の単独者である。では今ここに転がる石膏の林檎それぞれはどうだろうか。それぞれは同じ林檎の複製物ではあるが、それぞれがどんなに似ていてもやはりそれぞれはそれぞれ別の個体に違いない。あれとこれとそれはそれぞれ違うのである。